

広報

にしわが



2010 (平成22年)



3月号 53号

今月の内容

施政方針・教育方針の要旨	2~3P
各校で卒業式	4P
岩手県消防表彰式	4P
緑のふるさと協力隊活動報告	5P
町にAEDとマスク寄贈	6P
男女共同参画アンケート結果①	7P
スキー大会・昭和新山国際雪合戦結果	8P
にしわが産業再生の取り組み⑫	9P

■西和賀高校卒業式。伝統を受け継ぐ在校生にエールを送る卒業生
(3月1日・関連4ページ)

施政方針

演述要旨

町長 細井洋行



西和賀町が誕生して約4年半が経過しました。「『産業』『環境』『健康』人が輝き地域の力満ちる町」の目指すものは、普通のテーマとして「西和賀町総合計画」に反映されています。新しい時代の「結い」によるまちづくりを推進するという深い理念に基づくもので、この理念は常に「町民のためになる」という原則が前提にあることは言うまでもありません。

企画政策立案能力を問われることでもあり、町の将来ビジョンの実現に向け、新たな手法を捉らえつつ町民と共に行動していきます。

産業振興

① 農林畜産業

地域資源や地域特性を活かし、稲作、花卉、畜産、山菜栽培などを支援していきます。農業の担い手関連では、遅れている集落営農の組織化に力を入れていき、耕作放棄地や遊休農地関連では、所有者の理解をいただき有効利用を進めます。多様な農業スタイルや他地域との交流にも取り組み、新たな消費の開拓にも力を入れます。

21世紀を迎えた現在、将来に向けての課題は、食糧とエネルギー問題であります。今後はこの問題に取り組みすることで、社会にいかに関与できるかが問われる時代となります。西和賀には年平均10メートルあまりの降雪量があります。食糧やエネルギーを生み出す資源とみれば、無限の可能性を秘めた財産とも見ることができるとは思いません。一昨年の世界的な金融危機は私たちの暮らしや雇用まで脅かし、いまだに明るい兆しが見えない状況です。政権交代がなされた今、活力ある地域社会を形成、地域主権を確立するため、多様な取り組みを展開できるよう支援する仕組みに移行していきます。自治体職員が自らのまちづくりの

林業では森林の環境整備を図り、特用林産物の生産体制整備にも着手します。薪ストーブの普及促進に弾みをつける地球温暖化防止に貢献できるまちづくりを目指します。畜産については、堆肥センターの機能強化を図るとともに酪農経営安定化のための支援を進めます。農産物や山菜などの加工品は、直売所などを有効に活用し販売高増強を図ります。町外、県外に対する販売チャン

ス拡大も企画します。

② 観光産業振興

温泉を活用した健康づくりのメニューを構築するため、指導者の養成、体験メニューの整備を進めます。道の駅や湯夢プラザ、農産物直売所などを活用し、町内の名所を紹介するなど観光客の誘導と回遊を促進します。

6次産業を促進するため、西和賀ブランドの開発を指すとともに、温泉旅館の経営者と農家や加工グループとの交流事業も企画します。町内各地で行われるイベントに対応し、直売所も販売キャンペーンを組み、波及効果を活かす取り組みを支援します。

保健・医療・福祉

年齢層に応じた保健活動、検診を行い、保健と医療の連携による健康増進に取り組みます。生活習慣病予防活動も推進し、町民自らの健康づくりへの取り組みを支援します。

民間医療機関と沢内病院との相互連携を強化しながら、住民との懇談の場を通して地域ニーズに即した医療体制の構築を目指します。沢内病院の整備では、民間医療ができない分野で地域に必要な質の高い医療を提供するため「沢内病院経営健全化計画」の中で協議されてきた内容をもとに、建設構想を練っていきます。

障がい者にはやさしいまちづくりのため、公共施設のバリアフリー化を検討します。ま

た障がい者への相談窓口を設置し、支援のためのニーズを的確に把握し対応します。高齢者の生活不安に対する配慮も求められます。高齢者のみの世帯などには、生活状況の確認などのため職員を訪問させました。今後、冬季共同生活住宅などの必要性を検討します。

保育機能充実については「保育施設を考える委員会」から提言書をいただいています。提言内容は「(1)保育サービスタについて(2)保育施設の配置について(3)保育施設の運営形態について」に触れられています。保護者や地域との関連が大きい課題でもあり、住民懇談会を踏まえながら方向付けしていきます。

生活基盤

安全で快適な道路環境の整備を進めます。今後の町内の公共交通対策の課題なども視野に入れ取り組みます。また、効率的な除雪体制に向け除雪機械等の計画的な更新を検討します。除雪対策は西和賀町の最大の課題で、可能な限り条件整備に力を入れていきます。

また、水力や太陽光、地熱といったエネルギーに対し新たな視点で可能性を検討します。

西和賀高校の存続

県立西和賀高校は、地元中学校からはもちろん、近隣自

治体からも望んで進学して行く生徒を確保しなければ、存続は厳しい状況にあると言えます。魅力ある高校という評価に向け、進路指導や部活動の実績を上げられるよう支援していきます。高校や教育委員会と連絡を重ね、最善を尽くします。

芸術・文化の振興

芸術・文化の殿堂としての施設の有存在は、地域の歴史の産物であり誇りであります。感性豊かな人間を育てる芸術・文化、その香りが地元にあることは貴重な財産です。施設補修や財産補充も進めていきます。ソフト面では、町の感動的歴史を「町民劇場」という住民自らの表現で新たな感動に導きたいと計画しています。

人材の育成

少子化という大きな課題の中でも、常にこの地域の将来を担う人材を育成していくことは最重要課題です。教育方針の多くは教育委員会にゆだねますが、教育現場での子供たちの健全育成、町の地域特性を活かし、自然や雪を活用した学習、スポーツにも力を入れてほしいと希望しています。医師養成奨学金を積極的に活用し、将来の西和賀町の地域医療に貢献してくれる人材が輩出されることを祈念しています。

教育方針要旨

教育委員長

須藤 繁

繁



■学校教育

- ① 地元の食材を活用するなど学校、給食調理場関係者、家庭・地域の連携で「よりよい食習慣を身につけ、心身ともに健康な子ども」の育成に努めます。
- ② 小規模校、少人数学級の利点をいかした授業、全国学力・学習状況調査などに基づく授業改善、小・中学校連携など学力の向上を図ります。
- 23年度から小学校5・6年生の外国語(英語)の学習が始まることから、職員が研修を行い、児童一人ひとりの実態に合わせた指導ができるよう取り組めます。22年度は、湯本小学校、貝沢小学校の授業公開をはじめとする教職員研修の充実を図ります。
- ③ 教育の目的は「知・徳・体」の調和のとれた人間として育てることです。地域人材の活用、地域連携による学習機会を設定します。
- ④ 湯本小学校と沢内第一小学校に特別支援学級を設置予定です。また、沢内第一小学校・猿橋小学校・川舟小学校・沢内中学校の4校に特別支援教育支援員を配置、特別支援教育センター的機能を持たせ支援体制の充実強化を図ります。
- ⑤ 企業連絡協議会、商工会、産業公社、その他機関や関係者の協力を得て進めているキャリア教育推進協議会事業を中心に、勤労体験・職場体験学習の一層の充実を図ります。
- ⑥ スクールガードを中心に、家庭・地域との連携による安心・安全の町づくりを推進、子どもの安全を確保します。
- ⑦ 学校保健会や子どもの健康を守る地域連携推進事業を中心に、健康づくり教育に努めます。
- ⑧ 昨年12月に「湯田小学校・沢内小学校開校準備委員会」を立ち上げ、開校に向けた準備協議がスタートしています。現状の把握や課題を整理し、スムーズに開校できるよう準備を進めます。開校に関して「小学校開校準備委員会だより」などを通じて情報提供に

努めながら、町民の皆さんのご理解・ご指導をいただきましたと考えています。統合にともない利用されなくなる校舎等は、検討組織を立ち上げるとともに町民の皆さんとの意見交換の場を設けながら、利活用の方針を協議します。

- ⑨ 耐震診断結果に基づき、強度不足を指摘されている川舟小学校体育館と沢内中学校北側特別教室棟の補強工事を行います。同時に猿橋小学校の校舎補強工事の実施設計も行います。
- ⑩ 県教育委員会で今後策定に入る「第2次高校整備計画」に向け、教育振興への支援、通学費助成などを行い、西和賀高校の特色や町と一体であることをアピールし、西和賀高校存続運動を強化します。

■生涯学習

- ① 子どもから高齢者まで誰もが身近に、手軽に学ぶことができる機会として出前講座の活用促進を図り、また高齢者大学や町民大学講座の内容充実を図ります。
- ② 「地元学」の手法を取り入れながら、地域住民自らが地域の特色ある歴史や文化、資源を活用し地域づくりに取り組む活動を支援します。
- ③ 教育振興運動は、子ども、

親、学校、地域、行政の五者が連携して地域の教育活動に取り組み独自の活動として、教育環境の充実と成果を上げています。22年度は4年間実践した集約の年度と位置づけています。また、23年度の小学校統合にかかわり、各地域での実践区のあり方について、組織の見直しを含めよりよい方向性を検討します。

- ④ コミュニティ活動の中心施設、公民館の充実を図ります。22年度は9つの分館で下水道や浄化槽の設置工事を行います。
- ⑤ 子育てに不安や悩みを抱える親が増加傾向にあります。夜間や事業所に出向いての実施など、親が参加しやすい学習機会を提供します。また「アナの森自然塾さそう館」は、地元運営委員会の協力を得ながらより一層の充実に努めます。
- ⑥ 男女共同参画の推進については、町民との意見交換や時間をかけての検討が必要であるとの意見が多いことから、引き続き計画策定に取り組みます。
- ⑦ 子どもの読書に対する興味や関心を高めながら、読書習慣の形成や定着を図ります。図書室では蔵書の問い合わせや貸し出しなどの迅速化、蔵書の入れ替えなど、図書室を

■スポーツ振興

積極的にスポーツに参加できる環境や施設整備、利用者の安全確保に努めます。また各地区体育協会や団体への助成を行い地域の活性化を図り、大会上位選手への支援を積極的に進め、町の活性化を促します。

■芸術・文化の振興

- ① 銀河ホールは、地域演劇祭や高齢者演劇など演劇を通して町民福祉の向上に貢献したことが高く評価されており、今後も創造性豊かな人づくりに努めます。22年度は劇団前進座の公演をはじめ、地域演劇祭など優れた芸術に親しむ機会を提供していきます。
- ② 文化芸術は自らの心の豊かさや人を育むものであるとともに、歴史文化などの理解を深めその伝承・保存に努めていくことが大切です。芸術文化団体などと連携しながら町民文化祭、高齢者や児童生徒の発表の場を提供していきます。
- ③ 21年度までに整理を終えた大台野遺跡の遺物について、展示のあり方などの検討を行っています。

次のステップへ 新たな一歩 各校で卒業式

卒業シーズンの3月、町内の各学校でもそれぞれ卒業式が行われました。

○西和賀高校では

岩手県立西和賀高校の第38回卒業式は、3月1日に同校体育館で行われました。福祉・情報コースの31人と普通コースの38人の卒業生が、母校に別れを告げました。酒井孝子校長は「どのように苦しい状況にあっても、一筋の希望の光を見出せる力を自らの内に持ち続けてほしい」と式辞を述べました。



夢の実現に向け歩き出す
(西和賀高校)



先輩から花束を受け取る
(湯田中学校)



激励のことはを受ける卒業生
(沢内第一小)

○中学校・小学校では

湯田中学校と沢内中学校は3月13日に、貝沢、川舟、猿橋、沢内第一、湯本、川尻、越中畑の各小学校では3月19日に、それぞれ卒業証書授与式が行われました。中学校は2校合わせて61人、小学校は7校合わせて36人が卒業証書を受け取りました。卒業生たちは、後輩たちから祝福や激励の言葉をかけられながら、通い込んだ母校から巣立ちました。

岩手県消防表彰式 16人の活躍をたたえる

3月17日、平成21年度岩手県消防表彰式が盛岡市の岩手県民会館で行われました。消防・防災活動などで功績のあった個人や団体が表彰を受けました。

町からは高橋久雄消防団長（弁天）のほか受章者の消防団幹部などが出席。岩手県知事表彰と岩手県消防協会長表彰が授与されたほか、先に表彰を受けた消防庁長官表彰と日本消防協会長表彰受章者が紹介されました。

表彰式終了後、沢内バーデンで祝賀会が催され、高橋団長は「今日受章された皆さんの顔を見ながら、町民の身体、生命、財産を守る



功績が認められた受章者の皆さん

る消防団の力を実感し、安心した。特にも婦人消防協力隊が壇上に上がり、表彰を受けたのは町の誇り。今後さらさらに精進してほしい」とあいさつし、受章を祝しました。

受章された皆さん (敬称略)

- 消防庁長官表彰「永年勤続功労章」**
 本部付分団長 松本賢一 (若畑)
 本部付分団長 有馬富博 (鍵飯)
- 岩手県知事表彰**
「功績章」
 第1分団副分団長 高柳橋文和 (小繫沢)
 第1分団副分団長 高柳橋文和 (白木野)
 第2分団副分団長 高平澤正 (左草)
 第5分団副分団長 高平澤正 (泉沢)
 第6分団副分団長 米倉守 (貝沢)
- 「表彰状」**
 西和賀町婦人消防協力隊連絡協議会
- 日本消防協会長表彰**
「精績章」
 副団長 高橋昭貴 (太田)
 本部付分団長 松本賢一
- 「勤続章」**
 第2分団1部長 高橋正一 (槻沢)
- 岩手県消防協会長表彰**
「功労章」
 本部付分団長 有馬富博
- 「功績章」**
 第1分団副分団長 柳沢好徳
 第2分団副分団長 柏崎弘行 (湯田)
 第4分団副分団長 佐々木一身 (前郷)
 西和賀消防署消防司令補 千葉雄孝
- 「婦人消防協力隊員」**
 婦人消防代表委員 吉田みつえ (貝沢)
- 「内助功労」**
 第4分団長令夫人 赤石百合子 (太田)
 本部付部長令夫人 八京澄子 (大野)

活動報告



岩崎 竜也 さん

3月になり、毎日降っていた雪もだいぶ落ち着き始めて、西和賀でも徐々に春の兆しが見えてきました。あと一ヶ月もすれば、私が初めて西和賀に来た時と同じ時期になります。早いもので私が来てもう一年が過ぎようとしています。もう一年経ってしまおうと思うと本当に早いなあという気持ちになっちゃいます。

そして、私の緑のふるさと協力隊としての一年も、もうすぐ終わ



リンドウの手入れ



稲刈りも体験



牛の世話も重労働



施設利用者とかるた遊び



ドラム演奏も披露

りを迎えようとしています。本当にあつという間で、それでいていろいろな人や様々な体験ができた濃一年だったと思っています。ほとんどが初めての体験でした。今まで農業をやったことのなかった自分が、渡辺哲哉さんの家にお世話になって農業体験をさせてもらいました。今まで自分の中で想像していた農業とは全く違って、農業は、忙しく、大変で難しいものであると感じました。同時に、収穫するときの喜びも感じることもできました。渡辺さんのところでは農業体験をするということも大事でしたがそれ以外にも精神面でも鍛えさせてもらったことも大きかったと思います。

酪農体験も同じで、初めは正直、酪農体験というのにあまり良いイメージがありませんでした。しかし、菅原牧場さんのお世話になって、子牛や牛のお世話のお手伝いをしていて、牛乳の美味しさや牛

のかわいさに触れて、本当に最初に持ったイメージが変わりました。すばらしい体験ができて本当によかったと思います。

あけびつる細工体験では、あけびつるを編んでかごや鍋しきなどを作りました。若畑地区の高齢者の方と一緒に創作活動を体験することができたことも貴重な体験でした。

その他にも、ワークステーション湯田・沢内さんや光寿苑さんもお世話になりました。どちらも人と接する福祉系のお仕事で、ワークステーションでは利用者と一緒にクリスマス会や大根掘り作業をしました。光寿苑では、お年寄りの介護やデイサービスのお手伝いをしました。どちらも初めての経験でしたがすばらしい体験をさせてもらいました。お年寄りからのありがたい言葉は忘れられません。

産業公社さんには、一年間を通

して特にお世話になりました。温泉施設のお手伝いや、道の駅、オアシス館でのお手伝い、きのこセンターでのきのこの収穫や、製粉加工場のお手伝いと、本当にいろいろな体験させてもらいました。ほとんどが初めてですばらしい体験でした。何よりも、施設の皆さんがとても優しく、終わった後もいろいろな気遣ってくれたのが本当にうれしかったです。

仕事だけではありません、西和賀でのイベントもほとんど参加することができて、西和賀をいっぱい知ることができました。

錦秋湖水まつり、雪氷まつり、きのこまつり、芸術文化祭、チャリティショー、湯本鬼剣舞、バンド仲間、すべてがすべて西和賀町に来なければ、できなかったことです。チャリティショーでは、私が住んでいる上野々の皆さんと一緒に、とても楽しく参加できたのが印象に残っています。知り合ってたそんなに経ってないのに、バンドに誘ってくれたバンドメンバーの友達にも本当に感謝しています。

西和賀に来て一番得たものは、西和賀を知ることができたことと、西和賀の人たちと知り合い仲間良くなれたことだと思っています。

この一年間西和賀に住むことができて幸せでした。本当にありがとうございました。

善意ありがとうございます ございます



町長にAEDを手渡す笠井さん(左から2人目)

■北上の笠井さん

町にAEDを寄贈

北上市和賀町でLPガスや在宅医療などを手がける会社を経営している笠井昭彦さんが、2月15日に湯田庁舎を訪れ、AED(自動体外式除細動器)を町に寄贈しました。

笠井さんは幼少期に東京で暮らしていて、第二次世界大戦中の1945年に被害を避けるため旧沢内村の祖父の家へ疎開、およそ4年間にわたり生活した経験があります。今回の寄贈には「人生の原点である西和賀に少しでも恩返しをしたい」との気持ちが入っています。

笠井さんが経営する会社でもAEDを取り扱っている関係から、沢内中学校にAEDが未設置であることがわかり「沢内中学校に設置してほしい」との申し出があり、中学校への設置までを笠井さん自

らが行いました。

町教育委員会では年次計画でAEDの配備を進めています。今回の寄贈で予定より早く設置することができました。

■前郷出身・高橋孝夫さんから

不織布マスク6000枚

本町前郷地区出身の高橋孝夫さん(旧姓・鈴木孝夫さん)から、このほど沢内病院に不織布マスクが寄贈されました。高橋さんは現在、神奈川県で医療用機械や器具の販売を手がける会社を経営しています。

寄贈を受けたマスクは全部で6000枚。2月28日に東京都で行われた「沢内会総会」に参加した高橋さんから、総会に町から参加した野中教育長に申し出があり、寄贈を受けることになりました。今後、各学校の行事や各種イベントなどで大切に活用することになっています。

ありがとうございます。



6000枚ものマスクをいただきました

図書室からのお知らせ

図書室の新作の紹介

町では63冊の新しい本を購入し、川尻地区公民館図書室と太田地区公民館図書室に配置しました。一般書だけではなく、児童書や絵本もあります。お気軽にご利用ください。

【川尻地区公民館図書室】

(銀河ホール隣のUホール内)

◎日本文学(小説・物語)

- 「親鸞 上・下」／五木寛之
- 「古道具中野商店」／川上弘美
- 「宵山万華鏡」／森見登美彦
- 「月食の日」／木村紅美
- 「引き出しの中のラブレター」／新堂冬樹

◎歴史(日本史)

- 「昭和・戦争・失敗の本質」／半藤一利
- 「手にとるように日本史がわかる本」／岸 祐二



新しい本が入りました

【太田地区公民館図書室】

(役場沢内庁舎2階)

◎日本文学(小説・物語)

- 「小太郎の左腕」／和田竜
- 「花世の立春 新・御宿かわせみ」／平岩弓枝
- 「鉄の骨」／池井戸潤
- 「チギレグモノ、ソラノシタ」／石井裕之
- 「私のこと、好きだった?」／林真理子
- ◎日本文学(評論・エッセイ・随筆)
- 「美術屋の道具箱」／長内努
- 「告白的恋愛論」／渡辺淳一

図書館車を

利用してみませんか?



「みのり号」が巡回します

平成22年度も、4月から巡回図書を行います。県立図書館から貸し出しを受けた本など1000冊以上を図書車みのり号に積んで月1回巡回します。何冊でも借りられます。巡回を希望される人は教育委員会生涯学習課までご連絡ください。

問い合わせ先／生涯学習課

☎ 82-2045

男女は社会の対等な構成員 みんなで実践する計画づくりに着手

町では、男女共同参画社会の実現に向け、今年度から家庭や地域、行政などが取り組むべき活動の計画づくりに着手しました。その基礎資料とするため無作為に選んだ700人の町民にアンケートをお願いしていましたが、集計が完了しましたので、その結果を今号からお知らせします。

男女共同参画って？

急速に進む過疎化や少子高齢化のなかで町づくりを行っていくためには、男性も女性もそれぞれの個性と能力を十分に発揮できるような社会が必要です。しかし現実には、家庭や地域社会、行政などさまざまな場面においてまだ不平等だと多くの人が感じています。さすがに「男は仕事、女は家庭」というイメージを持つ人は少なくなってきましたが、これからは性別にとらわれず一人の人間として個性や能力を発揮できる社会にしていこうというのが男女共同参

画の基本的な精神です。平成11年には男女共同参画基本法が制定され、県をはじめ多くの市町村が計画をつくり、取り組みを進めています。

アンケートを集計

計画に町民の皆さんの考えや意向を反映させるため、各年代ともほぼ同数となるよう700人を無作為に選び、12月から2月にかけてアンケートをお願いしました。このほど集計がまとまりましたので、主要な項目について今号から何回かに分けてお知らせします。

アンケートへの回答は男性208人、女性196人の合わせて404人で、回収率は57・7%でした。49歳以下は女性が、50歳以上は男性が多く回答しています。(表①)

表① アンケート年代別回答者数 (単位:人)

年齢	男性	女性	合計
18歳～29歳	22	33	55
30歳～39歳	21	32	53
40歳～49歳	24	32	56
50歳～59歳	47	34	81
60歳～69歳	45	41	86
70歳以上	49	24	73
合計	208	196	404

表② 社会の次のような分野で「男女の地位が平等」になっていると思いますか。(単位:人)

項目	男性が優遇	平等である	女性が優遇	どちらとも言えない	わからない
家庭生活	140	134	17	87	13
職場	133	102	14	77	32
社会通念、習慣、しきたり	223	44	5	62	35
社会全体	170	56	14	103	29

表③ 「もっと男女が平等になるため」に重要と思うことは何ですか。(複数回答) (単位:人)

家事・育児・介護などが十分に評価されること	194
社会的なしきたりや古い習慣を改善する	193
子どものときから家庭教育などで男女平等教育を徹底する	112
女性が政治的な面や社会活動にも積極的に参加し発言する	107
女性が認識を改め、もっと自覚と責任意識を持つ	104
就職・昇進・賃金など、職業上の男女不平等をなくする	104
男性が認識を改め、もっと自覚と責任意識を持つ	81
女性が経済力をつける	53
その他	10

女の地位」に関する質問では、社会通念・習慣・しきたりなどで男性が優遇されていると答えた人が60%を超え、家庭や職場などに比べると地域社会で不平等を感じている人が多いということがわかりました。(表②)

この回答をさらに男女別にみるとほぼ同数となっており、女性ばかりではなく男性もそのように感じていることがうかがえます。

一方「社会のなかで男女平等となるには、何が重要か」との間には同数が家庭での家事や育児・介護の評価、あるいは社会的なしきたりや古

い習慣の改善と答え、教育や職業、政治的な面などを上回っています。(表③)

まずは身近な家庭や地域社会での取り組みが求められています。

※アンケートの集計結果は教育委員会生涯学習課にあります。必要の方は申し出ください。

■問い合わせ先／生涯学習課

☎ 82-2045

スキー大会結果

(種目や名前の丸数字は順位を表しています)

■町民スキー大会

2月28日、湯田スキー場で第4回西和賀町民スキー大会が行われ、ジャイアントスラローム2本競技でスピードを競いました。

【結果―優勝のみ】

▼Aコース(普通のポールセット)
小学生男子ベストタイム①羽柴遼(湯本小) 小学生女子ベストタイム①森優花(川尻小) タイムチャレンジ①戸巻純(湯本小) ▼Bコース(緩やかなポールセット) 小学生男子ベストタイム①真藤子空(川尻小) 小学生女子ベストタイム①馬渡結(湯本小) タイムチャレンジ①淀川絢音(川尻小) ▼Cコース(初心者用ポールセット) 小学生男子ベスト

タイム①有馬秀人(沢内一小) 小学生女子ベストタイム①佐藤志渚(川尻小) 幼児の部ベストタイム①加藤瑞基(湯本保) タイムチャレンジ①高橋いろ葉(越中畑小) ▼レーシング低学年男子①高橋昂也(猿橋小) 低学年女子①松川実央(沢内一小) 高学年男子①佐藤玲太(沢内一小) 高学年女子①竹澤みさと(湯本小) ▼中学生・一般男子①羽柴麗(湯田中) 女子①竹澤ゆきみ(湯田中)

■マスターズスキー大台大会

2月27日・28日の2日間、2010マスターズスキー大台大会が秋田県大仙市で行われ、町スキー協会所属の選手が出場、上位入賞を果たしました。

▼大回転男子B第1戦①梅川良一(湯田) ▼大回転女子C第1戦③藤田陽子(川尻)

協働のまちづくり シンポジウム

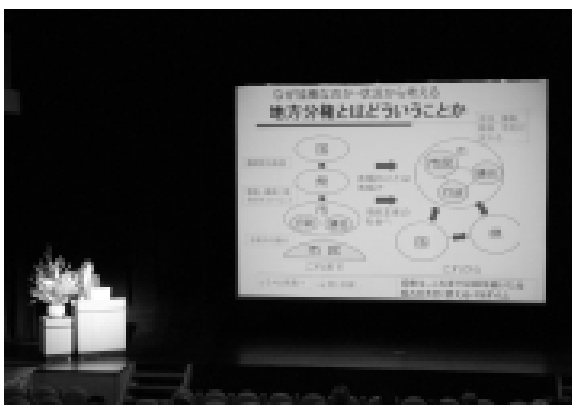
2月21日(日)、銀河ホールで「協働のまちづくりシンポジウム」が行われました。シンポジウムは基調講演とパネルディスカッションの二部構成で、地方分権時代の行政と住民の協働によるまちづくりを探りました。

基調講演では、相模女子大学人間社会学部教授の松下啓一さんから、地方分権の流れからくる協働の大切さやまちづくり基本条例の必要性などについて解説をいただきました。

松下さんは、協働のまちづくりを野球にたとえ「これまで内野である行政だけでやっていたまちづくりには、外野にいた住民や議員も参加し、それぞれの力を発揮して進めて行くことが重要」と話し、まちづくり基本条例は「全国で必ず作っていくことになる。なければまちはやっけていけなくなる」とその意義や考え方を示し、約70人の参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、町まちづくり基本条例をつくる会代表の高橋浩幸さんは、会の活動状況などを報告し、条例案策定に向けて町民の皆さんの意見を聞きながら進めていきたいとの抱負を語りました。

続くパネルディスカッションでは、松下さんをコーディネーターに、岩手県立大学総合政策学部教授の高橋秀行さん、高橋浩幸さん、岩手県南広域振興局長の藤尾善一さん、細井洋行町長の4人のパネラーがまちづくりに対する考えを語り合いました。



松下教授の講演などが行われました

昭和新年 国際雪合戦

西部レイダースベスト8入り

2月27日から28日にかけて北海道壮瞥町で行われた第22回昭和新年国際雪合戦。町内から南部レイダース、西部レイダース、EASEレイダースの3チームが参戦しました。

3チームともに予選リーグを通過しました。南部レイダースは準決勝リーグで破れ、決勝トーナメント進出はなりませんでしたが、

西部レイダースとEASEレイダースは決勝トーナメントに進出。EASEレイダースはトーナメント1回戦で「第N回優勝札幌チーム」(北海道)と対戦、激戦の末敗れベスト16。西部レイダースは準決勝で優勝チーム「AS.C」(北海道)と対戦、惜しくもベスト8入りは果たせませんでした。



ベスト8入りした西部レイダース

■問い合わせ先/政策推進室
西和賀町ホームページ

82 3284
http://www.town.nishiwaga.lg.jp/

西和賀元気な産業再生コンソーシアム事業が本格的に動き出します

にしわが建設会、元気な西和賀ネットワークなど5団体で組織する「西和賀元気な産業再生コンソーシアム」では、21年度、22年度の2年度間で、①菌床シイタケハウスへの雪冷房導入による省エネ・省コスト生産試験 ②わらび粉製造の機械化による特産品開発 ③山の幸観光園としてのきのこ園の実証試験 ④山の幸の宝庫『西和賀』PR の4事業に取り組むことにしています。視察研修や学習会の様子についてはすでにお知らせしてきましたが、いよいよそれぞれの事業が本格的に動き出します。



雪山の造成作業の様子

500トンの雪山を造成

西和賀町に豊富にある資源として雪があります。町ではすでに、農協の雪室などが稼動しています。が、今回の取り組みは、できるだけ経費をかけずに雪を利用しようというものです。

雪冷房を導入するのは、大渡にある(有)薄井組の菌床シイタケハウスです。シイタケハウスの隣地に15m×20m、高さ5mの雪山を造成し、バーク(木の樹皮)を断熱材としてかける作業が行われています。

今後は冷房装置を設置し、6月下旬から雪解け水を利用した冷房試験が始まります。



工場でのわらび根の粉碎試験

わらび根粉碎機の試験大詰め

国内でわらび粉を製造している生産者はほとんどなく、国産わらび粉は市場でも高値で取引されています。西和賀でも試験的に製造されていますが、作業に手間がかかることが課題でした。

コンソーシアムでは、わらび粉製造で一番大変な作業となる根の粉碎作業の機械化に取り組んでいます。

3月3日に、機械製造を委託している奥州市の東洋工機(株)で、ローラーを使っての粉碎試験を行いました。この機械が完成すると、秋には本格的なわらび粉製造に取りかかることとなります。



導入した機械の試運転をする羽柴組合長

観光きのこ園向け施設整備

西和賀の特産品として、春の山菜に並ぶのは、秋のきのこです。このきのこを観光に取り入れようと、このたび『西和賀きのこ観光農園組合』(羽柴昭一組合長・樺沢)が設立されました。

組合では、キクラゲやハタケシメジなど、さまざまな種類のきのこの菌床栽培に取り組み、樺沢地区にきのこの収穫体験ができる観光きのこ園を整備することになっています。

現在、栽培施設を整備しているところで、町でもこの事業に対して補助を行っています。組合では、新たな観光名所にしようとはりきって準備を進めています。



ホバークラフトでの人員輸送訓練

湯田ダム防災訓練 ホバークラフト配備

2月18日と19日の2日間、川尻の錦秋湖川尻総合公園を会場として国土交通省北上川ダム統合管理事務所の冬季防災訓練が行われました。

訓練は「17日夜に湯田ダム付近を震源として震度6強の地震が発生し、雪崩などで湯田ダムが孤立した」という想定で行われました。

衛星通信回線を使った外部との通信訓練や、ヘリコプターでの被害状況確認訓練のほか、今年度配備されたホバークラフトを使った人員輸送訓練も行われました。

アイデアいろいろ 特産品加工料理コンクール

2月19日、平成21年度の地域特産品加工料理コンクールが、沢内パーデンを会場に行われました。町や北上市、農協、森林組合などで構成する北上地方農林業振興協議会の主催で行われた今年のコンクールには、22の作品が出品されました。

コンクールの結果、加工品部門では『焼き苺のかくれんぼ』（高橋綾さん・上野々）、わらび料理部門では『わらびの味噌天ぷら』（佐々木美代子さん・若畑）が最優秀賞に選ばれました。

当日は西和賀むらづくりフォーラムも行われ、岩手県の食の匠の若生和枝さん（奥州市）が『夢を形に変える方法～やまんばん編～』、農業農村指導士の三浦静子さん（二戸市）『キッチンガーデンの取り組みと食文化発信活動について』と題して、それぞれ講演を行いました。



さまざまなアイデア作品が並びました



観客を魅了した「谷は眠っていた」

富良野塾閉塾を前に「谷は眠っていた」公演

2月19日、北海道の演劇集団富良野GROUPの演劇「谷は眠っていた」の上演が、銀河ホールで行われました。

ドラマ「北の国から」の脚本などで知られる作家、倉本聰さんが1984年に作った俳優や脚本家を養成する塾「富良野塾」の第一期生が、共同生活を送りながら厳しい労働や夜の授業に耐えながら夢を追う姿が描かれた作品。大道具などのセットが一切なく、全て役者の動き、演技力だけで表現されています。

富良野塾は今年4月に閉塾します。閉塾を前に、富良野塾最後の公演ということで会場の銀河ホールは満員に。集まった観客は、芝居を演じる役者の鍛えこまれた動き、迫真の演技に見入っていました。

その努力は国民のため 自衛隊入隊予定者激励会

2月23日、沢内庁舎で自衛隊入隊予定者激励会が行われました。今年4月に自衛隊に入隊予定の2人のほか、高橋副町長、町自衛隊協力会の加藤博市会長（新町）、自衛官募集相談員などが出席しました。

今回の入隊予定者は、西和賀高校3年の田中克哉さん（泉沢）と、高橋諒太さん（弁天）です。

高橋副町長が「健康には十分留意され、厳しい訓練を重ねながら国民の期待にこたえてほしい」と激励すると、田中さんは「日々の訓練を通して精進し、立派な自衛官になります」と、高橋さんは「少しでも災害援助などで活躍できるよう、日々の生活や訓練を一生懸命こなしたい」と決意を話していました。



固い決意を語った2人の入隊予定者
（左から田中さん、高橋さん）



ラグビーボールはどこに転がる？

冬でも熱い気持ちで 川舟学区民雪祭り

2月28日、川舟小学校のグラウンドを会場に、川舟地区恒例となっている雪上運動会「川舟小学校学区民雪祭り」が、川舟小学校教育振興会などの主催で行われました。

32回目となるこの雪祭りには、地区民や川舟小学校の教職員などおよそ200人が参加。若畑、高下・新山、川舟・丸志田の3支部に分かれ、運動会ではおなじみの大玉転がしや綱引きをはじめ、雪にちなんだ競技など10種目で競いました。

かんじきをはいてラグビーボールを蹴る競技では、雪の上をあちらこちらへと転がるラグビーボールを追いかける選手は四苦八苦。見守る地区民からは「がんばれ」と大きな声援が送られました。

お元気でしたか？懐かしい顔 沢内会総会

2月28日、東京都台東区の中国料理店東天紅上野本店を会場に、23回目となる「沢内会総会」が行われました。

主に関東で暮らす旧沢内村出身者で構成する沢内会（北島省三会長・新町出身）。会員相互の親睦や連携、情報交換などを目的としており、この日の総会には130人あまりの沢内出身者が集まりました。町からは野中教育長と佐々木町議会議長が参加しました。

懐かしい同郷の面々が集まる機会とあって、参加者たちはお互いに近況を報告しあったり、地元を題材とした映画「いのちの山河」が全国的に好評ということもあり、地元の思い出話などに花を咲かせていました。

「歌手並みのカラオケ」（参加者の感想）などで会は盛り上がり、会員は元気で再開することを約束して総会を終えました。



懐かしい顔に自然と笑みがこぼれます



ネット際の攻防を制するのはどちら？

ソフトバレーフェスタ 和気あいあいと好プレー

3月6日、さわうちソフトバレーボールクラブ（高橋淳代表・川舟）主催のソフトバレーボール大会「ソフトバレーボール西和賀フェスタ2010」が、太田農業者トレーニングセンターで行われました。

2002年から毎年行われているこの大会。今年は、男性が2人まで入る「トリムの部」に15チーム、女性だけの「レディースの部」に5チームの計20チーム、100人以上の選手が参戦しました。

トリムの部は3ブロックに分かれ、レディースの部を含めて4ブロックでそれぞれ試合開始。選手たちは大きな応援の声を受けながら、各ブロックの頂点を目指して心地よい汗を流しました。

下前地区で人形送り 無病息災と子孫繁栄を願う

3月7日、下前地区に伝わる伝統行事の「人形送り」が行われました。

地区内に災厄が入ってこないよう、地区の境に見張りのワラ人形を送る人形送りは、下前地区のほか、白木野地区と左草地区でも行われています。

下前地区民およそ50人が公民館に集まり、ワラ人形を組み上げました。完成したワラ人形を地区民がかつぎ、「ほら」と呼ばれる木製の大きな笛を吹いて太鼓を打ち鳴らし、沿道の家々の戸をはらいながら歩きます。家々からはお神酒などが振る舞われました。

地区の境まで到着すると、ワラ人形は道路わきの木に結び付けられ、団子やお神酒を供えて無病息災と子孫繁栄を祈りました。



険しい顔のワラ人形がにらみをきかせます

税務会計課からの

お知らせです

納め忘れていた税金は

ありませんか？

3月1日をもって、今年度の税金の納期が終わりました。日ごろ、皆さんにご協力いただきました。金ですが、納め忘れなどで「未納」になっているものはありませんか？今一度ご確認をお願いいたします。なお、納期限を過ぎると延滞金が課せられる場合もありますの

◆延滞金とは？

納期限が過ぎると、納期限内に納税した人との公平性を保つためにも、納期限の翌日から納める日までの期間の日数に応じ、年14.6%の割合で延滞金（納付が遅れたための利息）がかかります。ただし、納期限の翌日から1か月以内の期間は、年7.3%（当該期間のうち平成12年1月1日以後の期間については当該期間の属している年の前年11月30日現在の日本銀行法第15条第1項第1号の規定に定められる商業手形の基準割引率（従来の公定歩合）に年4%を加算した割合）の割合となります。

詳しくは税務会計課までお問い合わせください。

で、万が一、未納となっている税金がある場合は速やかに納付下さるようお願いいたします。

また、納付が困難な場合には、必ず税務会計課へご相談ください。納付確認や相談などが無い場合は、納付の意志がないと判断し、納期限内に納付している納税者との税負担の公平性を確保するため、やむなく差押えなどを行い強制徴収に着手しなければなりません。早めの納税と、納付困難な場合は必ずご相談下さるようお願いいたします。

土地家屋縦覧帳簿を公開

固定資産税は、毎年1月1日現在で所有している土地や家屋などの資産に課す税金です。町では、地方税法に基づき納税者が他の土地や家屋を比べ、自分の資産の価格が適正かどうか判断する資料として固定資産税土地家屋縦覧帳簿を公開します。

- 公開期間…土日祝祭日を除く
4月1日(木)～5月31日(月)まで
- 公開時間…午前8時30分～午後5時
- 公開場所…税務会計課・町民課
- 縦覧対象者…固定資産税を課税されている納税者または納税管理人

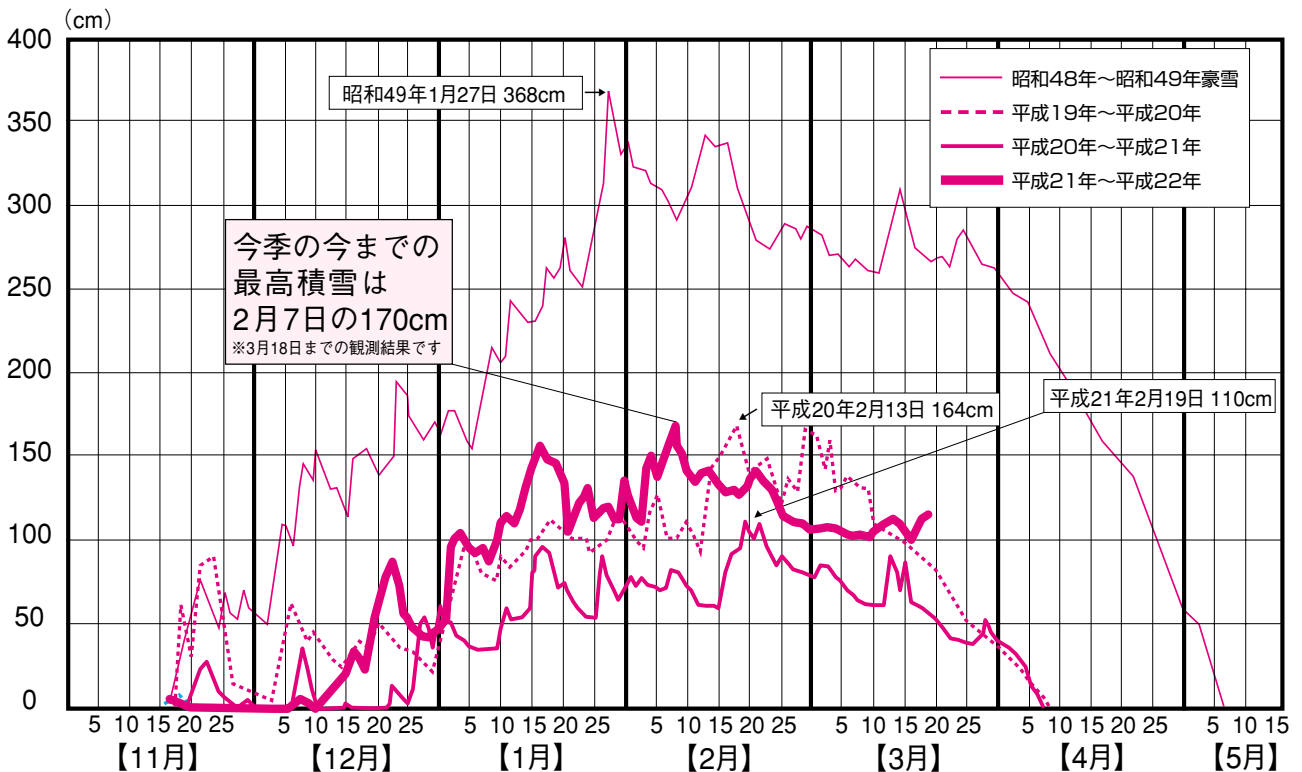
■問い合わせ先／税務会計課

☎82-32822・32803

積雪調査結果

西和賀町では、町内1か所（川尻地内）で独自に積雪量を観測しています。場所は湯田庁舎付近です。調査結果は独自のものなので、テレビ報道や新聞報道とは数値が違う場合があります。

問合先／総務課 ☎82-3281



川舟区

お話を聞きました：
行政区長 中川昭彦さん

一世帯数と人口を教えてください。

世帯数は166世帯、人口は483人です。(2月末現在)

行政区の範囲は

川舟区は、北は新山地区から高下、川舟、丸志田地区からなり和賀橋までの地区で、旧沢内の大字川舟の南端です。

川舟区の見どころは

川舟区は広範囲なため、高下、川舟、丸志田の3公民館を拠点として活動しています。歴史のある高下松森子の盆踊りや、また丸志田地区で地域活性化の一環で取り組んでいる安ヶ沢カタクリまつりは春の観光スポットとして全国的にも知られています。

川舟のふる里まつりとして盆踊りと一緒に帰省客を巻き込んだ演芸会を17年続けたり、郷土芸能に取り組んでいる地域です。「川舟田植踊」は、今から150年以上前に仙台方面に出稼ぎに行った人が、その近郊で踊られていた田植え踊りを習い覚えて持ち帰って現在まで伝えられ、昭和44年、旧沢内村の無形民俗文化財の指定を受け、伝承活動を行っています。小学校では30年以上前から子どもたちが取り組み、発表してきています。



春のカタクリまつりは全国的に有名

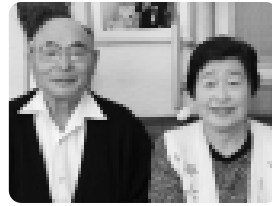


川舟小学校を主体としての教育新興活動の中では、地区民の交流の場となる学区民雪まつりも32年にわたり続けており、川舟小学校の閉校後も続けていきたいと思っています。

西和賀に

この人あり ③

「命を守る」交通安全に終わりなし



佐々木 孝治さん
(82歳・前郷)
伶子さん
(77歳)

交通安全活動のきっかけは

昭和43年、旧沢内村の初代交通指導員に任命されたのが始まりです。指導員は西和賀町誕生後まで続けていました。(平成18年3月に退任)

交通安全協会の礎をつくりましたね

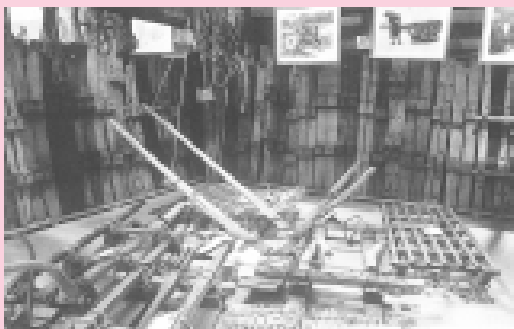
古くは「西和賀運転者協会」として、湯田沢内のドライバーが集まったのが最初です。その後「西和賀交通安全協会」となりましたが、時代の流れを受け昭和55年に湯田町交通安全協会と沢内村交通安全協会に別れ、それぞれ活動を続けてきました。西和賀町誕生後は北上地方交通安全協会沢内支会に変わり、次の世代に引き継ぎました。

妻をはじめ、まわりに支えてくれる人がたくさんいました。いい人に恵まれたからこそ、続けることができました。

今後の交通安全活動にひと言

命を大事にすることは、町の柱でもあります。尊い命を交通事故で失わないよう、精力的に活動してほしいですね。

積雪期用具=太田・碧祥寺=



(国指定重要有形民俗文化財)

碧祥寺博物館には、旧沢内村内とその周辺地域から収集された、積雪期に使用された道具およそ1800点が収められています。

冬の厳しい寒さと豪雪に悩まされながらも、たくましく豊かに生き抜くための工夫が施された先人の英知の結晶です。

文化財を訪ねて

絆 KIZUNA ③

中山多慶子さん =野々宿=
高橋宏子さん =左草=



「これからも親子2人で続けていきます」

昭和56年に野々宿で飲食店「銀河ステーション慶」を開業、平成17年から親子2人で店を切り盛りしている多慶子さんと宏子さん。

「地域の皆さんに支えてもらっています。お客様の身になっての対応を一番に考えています」と話していました。



月上旬までです。

まつりに対する熱意のある人、若い人など大歓迎します。仲間に入ってともに活動しませんか。

詳しい内容は事務局までお問い合わせください。

募集締切／4月16日（金）

申込・問合せ先／錦秋湖湖水まつり実行委員会事務局（西和賀商工会内） ☎82-2270 菅原まで

ウォーキング大会 参加者募集

西和賀ウォーキング協会（佐藤政信会長）では、平成22年度の事業として町内各地、県内各地でのウォーキング大会への参加を企画しています。楽しく歩き、親睦と健康増進のためにぜひ参加してみませんか。子どもから大人まで誰でも参加できます。たくさんのお応募をお待ちしています。

大会日程／①4月18日（日）

北上展勝地さくらウォーク

②6月3日（木）

女神山と白糸の滝めぐりウォーク

③7月11日（日）

錦秋湖あやめウォーク

④7月25日（日）

釜石シーサイドウォーク

⑤9月26日（日）

民話のふるさと遠野ウォーク

⑥10月3日（日）

蔵のまち江刺ウォーク

申込・問合せ先／西和賀ウォーキング協会事務局 ☎85-3191 深澤まで

山火事防止のお願い

春先は空気が乾燥し、風の強い日が多いため火災の起こりやすい日が続きます。次のことに注意し、森林の緑を火災から守りましょう。

<山火事防止のための7か条>

①枯れ草などのある火災が発生しやすい場所では、たき火をし

ないこと②たき火の場所を離れるときは、完全に消火すること③強風時や乾燥時には、たき火、火入れをしないこと④森林や原野で火入れを行う際は、必ず7日前までに町の許可を受けること⑤火災と紛らわしい煙や火災が発生するおそれのある行為をするときは、あらかじめ消防署長に届け出ること⑥タバコは必ず消し、吸い殻を投げ捨てないこと⑦火遊びはしないこと

問合せ先／西和賀消防署

☎84-2507

スポーツダンス教室 受講者募集

ダンス同好会「アザレアの会」（照井廣男会長）では、次の日程でスポーツダンス教室を行います。初心者、男性大歓迎。年齢は問いません。今回の教室では、初心者や高齢者も気軽にできる「ボックスルンバ」を行います。

日時／4月2日、9日、16日、23日、30日 いずれも午後7時から9時まで

会場／湯田農業者トレーニングセンター

種目／ボックスルンバ・マンボ

参加費／1,000円（初日に集金）

申込締切／4月1日（木）

そのほか／内履きを持参

申込・問合せ先／照井廣男 ☎82-3340、平山修子 ☎84-2840、菊池栄 ☎82-2729、高橋久栄 ☎84-2536

【訂正】

広報にしわが平成22年2月号（第52号）の12ページ「戸籍の窓・お悔やみ申し上げます」の記事中「柏崎千代美」さんのお名前は「柏崎千代見」さんの誤りです。お詫びして訂正します。

戸籍の窓

（敬称略）

2月12日～3月12日受付分

※掲載を希望しない事も出来ます。届け出の際にお申し付けください。



ご誕生おめでとうございます

米澤 菜白・女・一信・太田
梨子下 虎太郎・男・益実・上野々
竹澤 幸世・男・幸広・槻沢



お悔やみ申し上げます

黒石 小一郎・71・2月18日・湯川
百目木 サキ・96・2月18日・川舟
刈田 イヲ・80・2月18日・太田
近藤 キセ・89・2月22日・猿橋
高橋 剛道・80・2月24日・新郷
内記 徹・85・2月26日・前郷
菅原 政志・87・2月28日・猿橋
高橋 利美・84・3月2日・湯田
久保 キ工・83・3月2日・太田
加藤 宏拳・86・3月4日・新郷
深澤 ツメノ・84・3月9日・太田
佐々木 トクノ・77・3月10日・耳取
高橋 ミツエ・89・3月10日・川尻
鈴木 トシ子・85・3月11日・上野々

住民の動き

（2月末現在）

項目	実数	前月との比較
転入	8	+6
転出	7	-2
出生	3	-1
死亡	11	+3
人口	7,013	-7
男	3,278	-4
女	3,735	-3
世帯数	2,486	-2

交通事故の状況

（2月分）

	物損	負傷	人身	死亡	飲酒
実数	9	6	2	0	0
累計	(32)	(8)	(3)	(0)	(1)

（ ）は1月からの累計

火災・救急の状況

（2月分）

■火災

区分	火災出火件数	損害額
件数	0件 (0件)	0件 (0件)

■救急

区分	救急出火件数			合計
	交通	急病	その他	
件数	6件 (7件)	17件 (32件)	8件 (21件)	31件 (60件)
搬送人員	3人 (5人)	17人 (31人)	7人 (20人)	27人 (56人)

（ ）は1月からの累計



役場から

臨時職員を募集

町は、緊急雇用創出事業として、町道等環境整備事業作業員4人、公有財産管理システムデータ入力事務員1人を採用するため、西和賀町無料職業紹介所とハローワーク北上に求人公開しました。具体的な業務内容などの詳細は各担当課にお問い合わせください。

対象者／町内に居住する失業者
雇用期間／町道等環境整備事業5月から10月まで、公有財産管理システムデータ入力事業5月から8月まで

応募方法／西和賀町無料職業紹介所またはハローワーク北上で交付する紹介状と履歴書を、4月16日（金）午後5時までに総務課（湯田庁舎）に提出

問合せ／総務課 ☎ 82-3281（町道等環境整備事業作業員の業務の詳細は建設課 ☎ 82-3288）

平成22年度奨学生募集

町では、平成22年度第1回目の奨学生の申し込みを次のとおり受け付けます。

貸付対象／町内に居住している者（仕事の都合上その他やむを得ない事情により、町外に住所を有する者も含む）の子で、経済的理由により就学困難な者、景気雇用情勢の悪化により失業や解雇、もしくは著しく収入が減少した家庭の子

貸付金額／高等学校は月額2万円以内、高等専門学校と専修学校は月額3万円以内、大学と短期大学は月額6万円以内

貸与期間／在学する学校の正規の修学期間

貸付利率／無利子

必要書類／申請書（税務会計課・学務課）、在学証明書（学校から）、成績証明書（学校から）、

健康診断書（病院から）、世帯全員の住民票の写し（町民課・税務会計課から）、離職票（保護者が失業、解雇された場合）

貸与方法／毎月5日に口座入金

償還方法／10年以内

申請の受付／4月9日（金）～4月19日（月）

そのほか／奨学金貸与選考委員会の審査と予算の範囲内で貸与を決定し、5月6日から貸与します。奨学生本人の口座に振り込みます

問合せ・申込先／学務課

☎ 85-2337

国や県から

自衛官を募集します

自衛隊では、次のとおり一般幹部候補生と一般曹候補生を募集します。

応募資格／【一般幹部候補生】

20歳以上26歳未満の者（22歳未満は大卒または大卒見込み）

【一般曹候補生】18歳以上27歳未満の者

受付期間／4月1日（木）～5月10日（月）まで

一次試験日／【一般幹部候補生】5月15日（土）～16日（日）

【一般曹候補生】5月22日（土）

試験会場／【一般幹部候補生】

共済ビル（盛岡市）、自衛隊岩手地方協力本部（盛岡市）【一般曹候補生】

富士大学（花巻市）

問合せ／自衛隊北上地域事務所 ☎ 63-6736・役場町民課

☎ 85-2111

労働基準法を改正

今年4月1日から、労働基準法が次のとおり改正されます。

①月60時間を超える時間外労働の割増賃金率を引上げ

月60時間を超える法定時間外労働に対する割増賃金率が25%以上から50%以上に引き上げられます（中小企業は当分の間適

用猶予）。または、労使協定で引上げ分の割増賃金を有給の休暇（代替休暇）に代えることができます。

②時間外労働の削減

月45時間を超える法定時間外労働に対する割増賃金率を定め、その率は法定割増賃金率（25%以上）を超える率とするよう努めなければなりません。

③年次有給休暇の有効活用

労使協定で、年次有給休暇を時間単位で取得することができます。（1年に5日分を限度とします）

問合せ／厚生労働省岩手労働局 ☎ 019-604-3001

春の全国交通安全運動

交通事故防止を目指し「手を上げる 可愛い笑顔に 待つ笑顔」をスローガンに、次の日程で春の全国交通安全運動が行われます。

運動期間／春の全国交通安全運動・4月6日（火）～4月15日（木）10日間

交通事故死ゼロを目指す日・4月10日（土）

運動重点／①子どもと高齢者の交通事故防止②全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底③自転車の安全利用の推進④飲酒運転の根絶

問合せ／北上警察署 ☎ 61-0110 または最寄の駐在所

そのほか

「花火大好き！人間」募集します

今年で31回目を迎える錦秋湖湖水まつり。湖水まつり実行委員会では新しい実行委員を募集しています。主な作業は花火の打ち上げに必要な寄付集めや、イカダの組み立てなどが中心で、活動期間は4月下旬から5

ワラビの味噌天ぷら

地域特産品加工料理コンクール・わらび料理部門最優秀賞受賞

おすすめの一品 ②7

■紹介者：ちゃい夢の会 佐々木美代子さん（若畑）

【材料】

米粉（うるち）60g 天ぷら粉20g ワラビ50g ニンジン20g 長ネギ15g 味噌大さじ1 水100cc 天ぷら油

【作り方】

- ①水100ccに、米粉と天ぷら粉を入れます
- ②①に味噌を入れ、混ぜ合わせます
- ③②にその他の材料を入れ、8等分し、180℃に熱した油で揚げてできあがりです



※米粉と味噌を使った素朴な味。時間がたってもカリッとした感じが残るようにしました。

「西和賀写真スケッチ」写真を募集しています。

広報にしわがでは「西和賀写真スケッチ」に掲載する写真を募集しています。

- 写真の題材やカメラの種類は問いません。（カメラ付携帯電話も可）
- 写真データまたはプリント写真に、100字程度のコメント、撮影場所、撮影者の住所と氏名を添えて役場総務課までお送りください。（郵送または電子メール）
- お送りいただいた写真は、全部は掲載できませんのであらかじめご了承ください。

送付先：〒029-5512

西和賀町川尻40-40-71

西和賀町役場総務課広報係まで

電子メール/soumu@town.nishiwaga.lg.jp

トンネルと橋のある風景



先月に引き続き、道路と鉄道が一望できる写真です。写真右上に国道107号の無地内橋、奥にはJR北上線の無地内橋が見えます。右手前には町道笹原線の鷲之巣橋と秋田自動車道、左奥には湯田第一トンネルが見えます。（鷲之巣・田村米雄さん）

にしわが

写真スケッチ

てにをは

2月の最後の日曜日に銀河ホテルで「華牙（あしかび）」という映画を観ました。この映画は養護施設「みちのくみどり学園」の子どもたちを通して、虐待を受けた子どもたちの心の軌跡と、それを見守り心の回復に真剣に立ち向かおうとする人々の姿を描いたドキュメンタリー映画でした。

「三日に一人虐待によって子どもが殺されています」というタイトルや、「好んでこを訪れる子どもはいません。ましてや好んで託す親もいません。必然的な介入を余儀なくされ、家族が分離し、ここから再生の一步を踏み出すのです」という言葉が重く心にのしかかりました。

先日、タレントの青木さやかさんが女兒を出産し、事務所を通じて「わが子は一瞬にして宝物になるんだと感じています」とコメントしたと新聞で報じられていました。ほとんどの親はわが子の誕生を心から喜んだはずなのに、なぜ悲劇が起きるのでしょうか。

この映画を観て、子どもたちの笑顔がひとつでもふたつでも増えることを願わずにはいられませんでした。

広報編集委員 千田 フミ

3月は別れのシーズン。私がよく聴くネットラジオの制作団体も、メンバーが拠点を離れるため、番組の最終回を放送していました。学ぶことも多い、おもしろい番組でした。

彼らに負けない「作品づくり」を目指したい。そんな卒業シーズンでした。

総務課広報係 佐々木 真